

7. 近代東北アジアとロシア

日時：2009年12月13日(日) 18時～19時30分

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス大学院棟301号室

報告者：左近幸村（日本学術振興会海外特別研究員）

ロシア滞在中の報告者が一時帰国したのを機に、最新の研究成果の報告をお願いした。

本報告は、19世紀半ばにロシア帝国が清朝から獲得した沿海州南部のうち、ニコリスコエ村（現ウスリースク市）の具体例も踏まえつつ、露清国境を跨ぐヒトとモノの移動を検討し、東北アジアの経済ネットワークの一端を明らかにしようとした。

まずヒトの移動について、従来の研究ではロシア人移民と東アジアからの移民との関係に十分注意が払われてこなかったが、ニコリスコエ村にはロシア帝国内から移民が入植しただけでなく、以前この村一帯に有していた土地をロシアに奪われた中国人たちも留まって小作人化する現象が見られ、さらに村の発展につれてロシア国外から中国人や朝鮮人たちが職を求めてやって来るといふ、国境を越えた人の流れが生じたことが示された。

モノの流れに関してはまず穀物について、ロシア極東が満洲に依存し、アメリカなど世界市場との結びつきも有していたことが明らかにされた。また19世紀前半まで露清間の最大の貿易品だった茶の貿易もロシア極東と清の経済的結合を示していたが、一方で1890年代まで漢口にもロシア極東にもロシアの銀行が存在しなかったためロンドンで茶貿易の決済を行うなど、金融面での露清の結びつきは弱かった。

最後に、19世後半に見られたロシア極東の満洲に対する経済的依存は、その後シベリア鉄道の建設などロシア帝国内の経済統合により弱められようとする一方、ロシアの満洲への投資などで東北アジアとの結びつきが強化・複雑化する動きもあったことが強調された。質疑応答では移民の問題が主な議論の対象となった。①沿海州・アムール州への移民呼び込みのためのロシア政府の政策、②土地没収後もロシア領に留まった中国人の法的地位、そして③ロシア人の清朝への国境を越えた入植、について質問がなされ、①ロシア政府は当初外国人入植者にも優遇措置を取った、②残留した中国人には在留許可という意味でのパスポートが1880年代半ばから与えられた、③19世紀後半には沿海州やアムール州自体が人口希薄で、そこから清朝領へのロシア人入植に政治的意味が付与されることはなかった、という回答がなされた。関連して、あまりに人口希薄なこの地域と清朝との国境は管理が難しかっただろうという意見も出された。また欧露部と極東部との輸送（義勇艦隊など）・通信の問題や、義勇艦隊の往来頻度と役割などに関する質問も出された。本報告では、既存の地域ネットワークと、帝国の統合および世界経済の拡大という三者の関係が示され、他の地域の類似の問題を考える上でも示唆に富む内容であった。

近代東北アジアにおけるロシア領の形成と展開 — ヒトとモノの移動の観点から —

左近 幸村

はじめに～基本的な問題関心

「一国史」を克服するとはどういうことか??

帝政期ロシア極東経済の研究＝アジアとロシアに跨る経済ネットワークの研究



無関税システムを背景にした、国境を跨ぐヒトとモノの移動

{ ただし、国境を越えたヒトやモノの移動は古今東西よく見られる現象
国境を跨ぐ経済の研究をしたところで「一国史」を克服したと言えるのか? }

<今回の報告>

ロシア極東を取り巻く大小のヒト、モノ、カネの移動を比較する

⇒ロシア極東と東アジアのつながりの多様性、ひいてはロシア極東の多様性を確認

- {
- 1) ロシア極東の農村における中国、朝鮮人移民
 - 2) 穀物流通
 - 3) 茶の流通+銀行のはたらき

(想定しているのは多層的な経済ネットワーク)

●ロシア極東≡プリアムール総督府の管轄区＝沿海州、アムール州、ザバイカル州

{ ただし19世紀半ばにロシア領に組みこまれた沿海州南部(ウスリー地方)、アムール州とそれ以前からロシア領だったザバイカル州や沿海州北部は大きく違う。今回は、沿海州南部とアムール州を中心に適宜ザバイカル州に言及。

*以下本報告では沿海州という場合、北部を除く。

●今回の主要な対象時期：19世紀後半

1880年代＝ロシア極東統治の再編期

1880年：オデッサ - ウラジオストク間で定期航路(義勇艦隊)が就航

1883年～：欧露部からの移民の輸送路が転換。陸路から海路へ

1884年：プリアムール総督府設立

←背景にあるのは、対清関係の緊張化。イリ事件、吉林統治の改革。

1886年：琿春界約締結(ロシア極東における国境の最終画定)

←清仏戦争での清の敗北

1900年ごろ＝シベリア鉄道の敷設とともに、関税障壁の形成を模索

(単位)

プード=16.38kg、露里=1.067km、デシャチーナ=1.092ha、ピクル≒60kg

一 ヒトの移動

●1885年時点でのロシア極東の人口～総督の上奏文 (всеподданнейший отчет) より

- ・沿海州=74,700人 (中国人13,000人、朝鮮人7,800人、異族人12,000人)
- ・アムール州=62,000人 (中国人≒満洲人14,500人、朝鮮人700人、異族人800人)
- ・ザバイカル州=518,800人

*ザバイカル州に比して、圧倒的に低い沿海州とアムール州の人口密度

<入植の具体例>

ニコリスコエ村 (現ウスリースク市) : ウラジオストクの北100キロ。

1866年にアストラハンより66戸の家族が入植して村を建設。

もともと付近にいた中国人を排除する形で、入植が進展。

～ロシア人の影響力強化の背景～

- 1868年 : マンズ戦争での襲撃→以後、ウスリー地方の軍事拠点に
- 1884年 : 中国人に対するパスポートの導入

1895年の時点で315戸、2148人のロシア人が居住。

～世帯ごとの土地の利用～

- ・すべて自ら耕作 : 11.1%
- ・自らの耕作と土地の貸与の併用 : 37.1%
- ・土地を耕作せず、貸与のみ : 24.2%

*残りの4分の1ほどは、非農業従事者

誰に土地を貸すのか⇒中国人、朝鮮人

- ロシア人の耕作面積=3,078デシャチーナ
- 中国人、朝鮮人の耕作面積=3,377デシャチーナ

(中国人、朝鮮人への土地の貸与は、沿海州、アムール州で広く見られた)

比較的高い農業生産力を背景に、製粉業を発達させる

1898年 : ニコリスク・ウスリースキー市へ昇格

(背景) ウスリー鉄道、シベリア鉄道の建設

→ウラジオストク、ハバロフスク、満洲の結節点へ

【小括】

ロシア人移民の入植 = 「ロシアの土地」であるという政治的メッセージ

⇔現実にはロシア人の入植が中国人、朝鮮人を呼びこむという構図。

二 穀物の移動

ニコラエフスク村の製粉業

● リンドゴリム社の製粉工場

- ・ロシア極東で最大級（一日5000ブード生産「可能」）
- ・所有者は捕鯨業者のオットー・リンドゴリム（ウラジオストク在住）
- ・地元産の穀物を使用

ただし沿海州、アムール州全体では穀物が不足

⇒1880年代半ば：毎年120万ブードの穀物（未加工）が沿海州とアムール州に輸入される

- ・ザバイカル州より：20万ブード
- ・欧露部より：25万ブード
- ・中国と日本（満洲）より：70万ブード
- ・アメリカより：5万ブード

*本来、沿海州とアムール州の不足分はザバイカル州が補うはずだったが、輸送コスト、供給量の不安定さのために実現せず

✦ アメリカ、欧露部からの製粉済み穀物の流入（詳細な量は不明）

- 〔 アメリカ産ほうが圧倒的に安く、多く市場に出回る
⇒欧露部の商人からアメリカ産に対する課税の要請 〕

< 穀物の代表的な購買者 >

兵站部、金山、酒造業者

総督府による市場介入。備蓄政策。

【小括】

進展する満洲への「依存」。ただし19世紀の時点では、満洲穀物の排除について本格的に議論されない⇔20世紀の課税論

＝中国人、朝鮮人への土地の貸与問題と同じ展開

三 茶とカネの移動

19世紀前半までの露清間の茶貿易～キャフタを結節点とした貿易

< 北京条約以降の変化 >

- ・ロシア人商人が清国内（漢口）に進出
1872年：3社→1897年：12社、116人。
- ・オデッサ経由の輸入ルート（ただしキャフタルートも存続）
⇒イギリスの茶貿易との関連

● ルートごとの茶の違い

〔 オデッサ方面＝ほほすべてが紅茶
キャフタ、太平洋＝紅茶3分の1、磚茶3分の2

●税率の違い

オデッサ経由：紅茶1プードにつき21ルーブル、キャフタ経由：11ルーブル（1885年）
＝キャフタ商人の保護政策。ただし1887年以降、キャフタ方面の関税も値上がり。

＜オデッサまでの輸送＞

ロンドン経由から義勇艦隊での直接の輸送へ（1890年前後）

背景に中国の茶市場からのイギリスの撤退

*ただし、露清間の決済はロンドンを通じて行われていた

⇒露清銀行設立（1896年）の背景

《補足》

〔 1893年からロシア国立銀行はロシア極東へも進出
1886年：プリアムール総督による国立銀行支店設立の陳情
資本の回転の遅さ、融資機関の欠如が極東の経済発展の障害

〕

おわりにかえて～シベリア鉄道の敷設とその後

1891年：シベリア鉄道の起工＝欧露部と極東の結びつきの強化

⇒1901年：自由港制の廃止（04年に復活）

1903年：満洲穀物に対する課税論

1904～05年：日露戦争

1909年：自由港制の再度の廃止

1910年：アジア系労働者の雇用禁止令（土地の貸与も禁止）

1913年：露中国境の自由貿易地帯の廃止

ロシア極東の東アジアへの「依存」解消を目指す動きは日露戦争を経て、ストレイピン期
に本格化

*経済問題＝政治問題という認識

●一筋縄ではいかない、東アジアとの関係

例1) 1901年の自由港制廃止

⇒東アジアにおけるルーブル流通の引き金

例2) ロシア帝国の満洲への投資

⇒満洲経済の発展。製粉業の勃興⇒ロシア極東への関税導入の背景

●自由貿易体制とのかかわり

〔 ロシア極東の自由貿易はイコール無関税貿易。兵站部による市場介入などを考慮すると、
イギリスの自由貿易主義などとは対照的な経済体制。

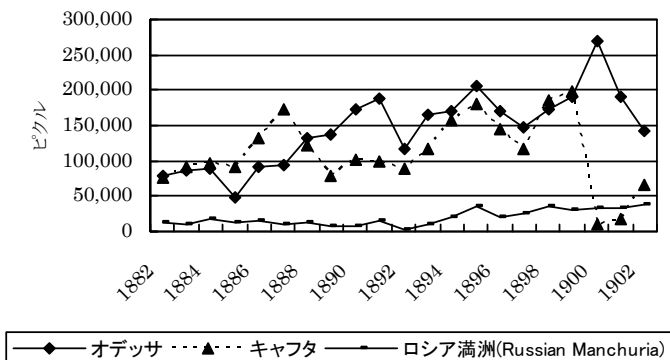
〕

ただし茶貿易を通じて、グローバル経済とも密接な関連をもつ。

【主要参考文献】

- Российский государственный исторический архив.
 Ф. 23. Министерство торговли и промышленности.
 Ф. 323. Правление общества КВЖД.
 Ф. 391. Переселенческое управление МЗ.
 Ф. 394. Комитет заселению Дальнего Востока при Совете министров.
 Ф. 560. Общая канцелярия МФ.
- Всеподданнейшие отчеты приамурских генерал-губернаторов за 1884-1895.
- Всеподданнейшие отчеты приморских губернаторов за 1882, 1889-1895.
- Всеподданнейшие отчеты амурских губернаторов за 1883-1895.
- *Бережников, М.* Обзорение фабрично-заводской промышленности Приморской области в 1896 г // Записки приамурского отдела императорского русского географического общества. Т. IV. Вып. II. Хабаровск, 1898.
- *Бережников, М.* Обзорение фабрично-заводской промышленности Амурской области в 1896 г // Записки приамурского отдела императорского русского географического общества. Т. III. Вып. III. Хабаровск, 1898.
- *Клюков Н.А.* Опыт описания землепользования у крестьян-переселенцев Амурской и Приморской областей. М., 1896.
- *Троицкая Н.А.* (ред.) Никольск-Уссурийский: страницы истории. Документы и материалы. Владивосток, 2003.
- *Лукоянов, И.В.* «Не отстать от держав...» Россия Дальнего Востока в конце XIX – начале XX вв. СПб., 2008.
- *Петров, А.И.* История китайцев России. 1856-1917 годы. СПб., 2003.
- *Ремнев, А.В.* Россия Дальнего Востока. Имперская география власти XIX – начала XX веков. Омск, 2004.
- *Томпстон, С.Р.* Российская внешняя торговля XIX – начала XX в.: организация и финансирование. Москва, 2008.
- *China. Imperial Maritime Customs. Decennial Reports, 1882-91 and 1892-1901.*
- 石川亮太「近代東アジアのロシア通貨流通と朝鮮」『ロシア史研究』78号、2006年、69-78頁。
- 石田興平『満洲における植民地経済の史的展開』ミネルヴァ書房、1964年。
- 左近幸村編『近代東北アジアの誕生：跨境史への試み』北海道大学出版会、2008年。
- 塩谷昌史編『帝国の貿易：18～19世紀 ユーラシアの流通とキャフタ（東北アジア研究センターシリーズ11号）』2009年。
- 原暉之『ウラジオストク物語：ロシアとアジアが交わる街』三省堂、1998年。
- 吉田金一「ロシアと清の貿易について」『東洋学報』45巻4号、1963年、39-86頁。

図1 中国産紅茶の輸入経路



出典：China. Imperial Maritime Customs. Decennial Reports, 1882-91 and 1892-1901.



出典：松里公孝「プリアムール総督府の導入とロシア極東の誕生」左近幸村編『近代東北アジアの誕生：跨境史への試み』北海道大学出版会、2008年、296頁。